貫井の風

令和４年度１１月号
ＮＯ．７

練馬区立貫井中学校　学校だより

世の人は我を何とも言わば言え
我が成すことは我のみぞ知る（坂本龍馬）

これは、幕末の有名な偉人、坂本龍馬が皆さんと同じぐらいの年齢の時に詠んだ歌です。この歌の意味はこうです。

「世間の人たちが言いたいのであれば、私のこと（悪口やうわさ話）を言いたいだけ言えばいい。しかし、私のやること、やろうとすることは私だけが知っているのだ」。

何とも自信と情熱、気概（くじけない強い意気込み）の感じられる歌です。十代の年齢でここまできっぱりと言い切るのは、なかなかむずかしいことではないかと思いますが、さすが、後に「日本の夜明け」を導いた人です。

この歌は、彼が十六歳のときに詠んだ歌と言われ、姉の乙女さん宛につくられたとされる「詠草集」は、彼が暗殺され、非業の死を遂げた京都にある国立博物館に所蔵されています。

ここで坂本龍馬の業績について少し紹介をします。幕末の志をもつ武士、志士と呼ばれる人たちは沢山いますが、彼は大活躍をしました。特に、貿易会社と政治組織を兼ねた亀山社中（後の海援隊）の結成、力を持つ雄藩としての影響力のある薩摩藩・西郷隆盛たちとの長州藩・木戸孝允たちの同盟の斡旋、江戸幕府の終わりとなる大政奉還の成立など、難問に尽力し、倒幕及び明治維新に大きな影響力を与えました。

このように素晴らしい活躍をした龍馬ですが、幼少の頃は十歳を過ぎても寝小便タレ、つまり、おねしょをしていたそうで、気弱で弱虫だったとも言われます。周りの人から冷たい目で見られることもよくあったそうです。

はじめに紹介した歌は、その頃を思い出して詠んだのでしょうか。また、龍馬は十二歳のときに、ある漢学の塾で学んでいたのですが、デキが悪かったようで、退塾させられたとのことです。塾を追い出されたのですね。一説にはいじめにあって刀を抜く騒ぎを起こしたそうです。その後は、姉の乙女さんに学問を習い、剣術の稽古に励みました。そして、十四歳まで高知城下の剣道場に入門し、小栗流和平法を学び、その後めきめきと剣の腕をあげ、北辰一刀流の千葉道場に入門するため江戸留学の許しを得るほどまでになったのです。剣の腕をあげ、自信を得たのでした。

人は他人からいやなことを言われたり、悪い評判を聞いたりすると、つい自信をなくしたり落ち込んだりするものです。しかし、何事を成すのにも、龍馬のように、自信と情熱、気概をもって目標に突き進む姿勢が必要です。正しいことをしているのなら、自信と誠意をもって事をなすことができます。

同じ時代を生きた吉田松陰は、こんな言葉を残しています。「志定まれば、気盛んになり」目標が定まればやる気や意欲も出るものだ、というのです。

少年時代に寝小便タレだった男の子が成長して日本の未来を動かすまでになりました。志を定め、気概をもって、皆さんも日々、頑張りましょう。

「今、卒業生は」

令和三年度卒業生

貫井中の皆さんこんにちは。僕は今年の三月に貫井中を卒業した佐藤大夢です。高校生になってまだ数か月ですが、僕が今感じていることや思っていることを自分なりに述べていこうと思います。

僕たちには進路選択をしなくてはいけない時が必ずやってきます。僕はまだ子供なので正直何が自分にとって正解なのか分かりません。なので、家族や先生方に自分の思いを何回も聞いてもらいました。その中で、僕の恩師が「自分の人生、良くするも悪くするも自分次第なんだよ。努力して頑張っている人には、必ず良い結果と応援団がついてくる。」と話してくれました。その時は「はい、ありがとうございました。」と言って、頭の片隅に言葉は残っていたものの、とりあえず努力をすればいいと思っていましたが、いざ受験が終わり志望校に入学出来ることになった時、その言葉の意味を深く受け止めることが出来たと思います。

晴れて高校生となった僕は、毎日楽しくて充実しています。勉強は中学の時とは比べものにならないくらい大変になりました。面倒だなと思うことも沢山ありますが、また次の進路選択の時に後悔しないようにきちんと学んでいきたいと思っています。そして部活動。僕はアーチェリー部に入部し、名前が刻まれた道具を手にしました。嬉しかったし、文武両道を目指しました。なので、その気持ちを大切に練習を頑張っています。

貫井中の皆さん、コロナ禍で色々と我慢しなくてはいけないことがあったり、思うように進めないことがあると思います。そんな時自分たちの周りにいる家族か先生方に悩んでいることを伝えることが大切です。恥ずかしかったり、つらかったりするけど、きっと良い方向に向くヒントをくれると思います。僕たちの人生はまだ始まったばかりです。後悔のないように僕も頑張ります。皆さんも頑張ってください。

令和三年度卒業生

私は、中学三年生の始めの頃、特に強いこだわりもなく、高校進学を希望していました。今私が通っている高校を希望するきっかけになったのは、夏休みに行った学校説明会です。偏差値や通学の利便性が丁度良かったというのもありますが、何より高校を訪れて感じた先輩方や先生方の印象、学校の雰囲気がとても自分に合っていて、この高校で学びたい！と思うことができたのが決め手となりました。なので、進学する高校を決める際は、実際に行ってみることが本当に大事だと思います。

今、私は、勉強に部活にいそがしい日々を過ごしています。九月には文化祭があり、コロナウイルスへの対策もしつつ、工夫をしながら学校全体でつくり上げた文化祭は、大変だったけれど楽しかったです。部活動は吹奏楽部に入り、良い仲間にも恵まれ、毎日楽しく練習に励んでいます。高校の勉強は、私が数学が得意でないからかもしれませんが、数学の内容がかなり難しくなったように思います。ですが、授業は楽しいです。

私は半年ほど高校で過ごして、学習の習慣を身に付けることの必要性を実感しました。これは中学校でも同じだと思います。なので、中学生の皆さんには、今から家庭学習などの習慣を身に付けていくことをおすすめします。

最後になりますが、どうか皆さん、心身の健康を第一に、無理せず、勉強も部活も、頑張ってください！

教育実習を終えて

日本大学　文理学部　体育学科　四年

三週間にわたって貫井中学校で教育実習をさせていただきました。指導、協力していただいた先生方、生徒たちのおかげで大変充実した実習になったと感じています。

私自身は私立の中学、高校出身なので公立学校は小学校以来でした。学力や運動能力に関係なく、同じ地域の生徒たちがあつまるという環境は私立とは異なっていて、公立であるからこその良さ、授業組み立てのむずかしさを学べました。

今回の実習で感じたのは、三年間を通した指導、教育の重要性です。私は保健体育の実習生として全学年の授業に参加させていただきました。一年生から二年生、また三年生と学年が上がるにつれ、規律やあいさつがしっかりしていくだけでなく、その規律をもとに生徒たちが自主的に判断していることを感じました。自主性を育むためには、ただ自由を与えるのではなく、しっかりと規律を身につけている事を基底として、その上に成り立つものなのだと学びました。貫井中学校の保健体育の授業では、一年次は授業の進行を大切にしつつも、それ以上に授業を進行していく上でのルール、授業準備の仕方を身につけさせることを重要視していました。確かに、授業計画を消化していくという点では適してはないかもしれませんが、二年三年になった時に、非常にスムーズで質の高い授業につながっていると感じました。また、授業進行していく上で、生徒の理解度を把握しながら進めることの重要性も感じました。説明の際にわかりやすい言葉で端的に説明していくことで、生徒の理解と授業の進行を同時に進めることができると学びました。

三週間を通して多くを学ばせていただきました。この経験を今後指導者として、また一人の人間として生かせるようにしたいです。

玉川大学　教育学部　教育学科　四年

十月八日から十月二十一日まで貫井中学校での教育実習を行った。実習開始前までは、社会科の授業に関してのみ学ぶ二週間になることを考えていた。

しかし、現在二週間を過ごしてみて、教科以外の学級指導や生活指導、部活動など様々な所で生徒と関わることで、社会科の指導に関すること以上に多くの学びを得ることができた。私にとって、この二週間は内容の濃い全てのことが学びとなる期間となった。

私は、春に小学校での教育実習を行って来たが、中学生は小学生とは学習面や生活面での様子や雰囲気が大きく異なっていることを感じた。具体的には、廊下ですれ違う時の挨拶や授業内での発言の仕方、学びに向かう姿勢、休憩時間と授業時の切り替えが、きちんとできているといったことが挙げられる。

貫井中学校での日常からの生活指導による影響が大きいとは考えるが、大人に向けて生徒が人間として成長していることを実感した。そのような成長を感じることが多かったが、それと同時に小学校段階での学びや指導がいかに重要かということを改めて感じた。中学校での各教科での学習は小学校で学ぶことの延長線上にある。そのため、小学校段階で学びの基礎の定着や学習する上での読み解く力や思考する力の定着が大切といったことを感じた。また、このことは生活指導や部活動での指導においても感じた。学校生活における礼儀や提出物に関しての自分で考えて行動すること、部活動の活動からは体の使い方など基礎的な部分を小学校段階から養うための指導が必要だと感じた。私は、来年度の春から小学校の教員となる。今回の教育実習での学びや感じたことを実際に教壇に立った際にどのようにして生かしていくのか、改めて考え春に向けて準備していきたいと考える。

合唱コンクールを終えて

合唱コンクールが終わりました。この本校の伝統的行事に対して生徒たちは真摯に向き合い大変良く努力していたと思います。

その理由は当日までの練習過程にあります。マスクを着用しての合唱。そして練習ではパート、グループを主体にした練習が主とならざるを得ないコロナ禍の、我慢しなければならない練習状況があったからです。

練習場所は、各教室、廊下、体育館、上校庭、下校庭、第１・第２音楽室。ただし、クラス全体で集まって練習できるのは体育館や校庭での練習の時のみ。これで、パート間の声合わせ、そしてクラス全体のハーモニーを築いていくのは大変な苦労があります。

しかし、そのような困難な状況にもかかわらず、むしろ楽しみながら授業、放課後を含めた練習に真摯に、真剣に向き合っていた生徒の素直な姿には、我が校の生徒でありながらたいしたものだと思いました。

生徒同士の気持ちの多少の行き違いなどがあったとしても、練習過程の中でしっかりと向き合っているという証拠は、遠くから、近くから、校舎内のいろいろなところから聞こえてくる声から分かりました。

歌声が響く学校。エネルギーに溢れ、学校らしくて本当に良いなと思いました。

そして本番。マスクをしての合唱でしたが、音響効果の薄い、練馬文化センターなどとは違う本校の体育館でも、子どもたちの声は響いていました。そして何より、各学年、どのクラスも指揮者を中心に、伴奏者と各パートの歌い手が一丸となってハーモニーを創っている。良いなと思いました。体育館での結果だけでなく、練習過程でのいろいろな苦難を各クラスで乗り越えての合唱。金賞、銀賞はありましたがどのクラスもそれぞれの良さが表現できていて素晴らしいなと思いました。確かに専門的なことをいえばいろいろとあるのかもしれません。しかし、学校の教育的な取組として行う行事としては素晴らしい出来だったのではないでしょうか。私はマスクをした合唱はハンディを背負っての合唱だと思っています。しかし、それに生徒たちは打ち勝っていたと思います。

そして、その姿をいろいろな工夫を重ねながら保護者の皆さまに、入場入れ替え制による学年ごとではありましたが、参観していただくことができたのは個人的に大変嬉しいことでした。やはり貫井中生が頑張っている姿を見ていただけることは学校としては何よりです。生徒たちには来年も又、貫井中の新たな合唱コンクールの歴史を積み重ねてほしいなと思います。